6月30日（火）上毛新聞掲載

技能実習生や留学生向け

介護の担い手支援

前橋 ほたか会がシェアハウス

介護分野に携わる外国人を支援しようと、社会福祉法人ほたか会（前橋市昭和町、樋口明理事長）は、運営事業所で働く外国人技能実習生や留学生向けのシェアハウス「ラルジュ前橋」を同町にオープンした。人手不足が続く業界の担い手として期待される外国人を受け入れ、多文化共生の居場所づくりを目指す。

もともと介護施設だった3階建ての建物を改修し、20の個室や共有リビング、キッチン、シャワールームを整えた。定員は40人で、28日からインドネシアやベトナムの職員10人が共同生活を始めた。

29日には施設で働く若手外国人向けの研修会が開かれ、21人が業務の進め方やマナーを学んだ。2月に来日したインドネシア人実習生、ナイリ・ムロダーさん(23)は「住みやすいハウス。先輩から日本や仕事のことを教えてもらえる。もっと日本語と資格の勉強を頑張りたい」と意気込む。

新型コロナウイルスの影響で入国の見込みが立たない実習生もいるというが、今後も積極的に受け入れる考え。樋口理事長は「生活が充実してこそ仕事も楽しめる。日本人職員にとっても異文化を学ぶ場所になる」としている。

オープンしたシェアハウスで研修を受ける外国人技能実習生ら